

未来^眼とうほく 震災特別対談②

震災復興から「東北は一つ」を目指す

平成17年10月に宮城県知事に就任し、現在2期目を務める村井知事は、昨年3月に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県の復興に向けて、現在も陣頭指揮を執っておられる。今回の対談では、そうした取り組みを中心に、道州制への思いや、来るべきエネルギー問題などについてお話をうかがった。

国の動きは待ってられない

●町田 昨年3月11日に発生した東日本大震災で、宮城県は甚大な被害を受けられました。まず心よりお見舞い申し上げます。知事は獅子奮迅のご活躍で県民の信頼も大変厚いとうかがっております。震災からもうすぐ1年が経ちますが、これまで特にご苦労されたことは何でしょうか。

●村井 地方分権が進んでいるとはいえ、日

本はまだ中央集権国家です。そうした中で、私も描くビジョンが本当に実現できるかどうか、自分たちではなかなか判断できなかったことが一番苦しいところでした。正直に申し上げて、国の動きを待っていられたので、少し勇み足かなと思うくらい、早め早めにこちらから「こうしたい」という情報発信を行いました。その途上でいろいろご批判もありましたが、基本的に、元に戻すだけの復興ではなく、10年後、20年後を見すえて、次の時代のモデルを作ろうという気持ちで取り組んでまいりました。

●町田 宮城県では昨年10月に、今後10年間の震災復興計画を作成されました。国より先に方向感を明確にされたのは見事だと思います。

●村井 震災直後に官邸で開かれた復興構想会議で、阪神・淡路大震災の時に兵庫県知事でいらした貝原俊民さんは、「10年で神戸の街や港はきれいに戻ったけれど、人や船は戻ってこなかった」と話しておられました。「やはり、10年経つと周りの環境が変わってしまうので、あのときに10年後を見すえた街づくりを進めていけば、神戸はもっと元気になったのではないかと」もおっしゃっておりました。それを聞いて私はなるほどと思いました。被災者は2011年3月11日で時計が止まっていますが、周りの環境はどんどん変化しています。復興までに10年かかるのであれば10年先はこうあるべきだという自分なりのビジョンを早めに掲げてやっていこうと思いました。

●町田 大切なお考えだと思います。さて、昨年11月の国の第3次補正予算では復興に9兆円強が計上されましたが、これはどう評価されますか。

●村井 本当は、被災者のところを回って激励しながら計画を作りたいのですが、ほぼ毎週のように上京して国へ陳情要望を行い、また打ち合わせをしなければならなかったことで、肉体的にも精神的にも相当大変でした。ただ、そのおかげで国の第3次補正予算、あるいは関連法案がほとんど通りましたので、100点満点ではありませんが、宮城県が要望していたことにつきましては、水産業復興特区なども含めましてほぼ認められたと考えています。

●町田 それは何よりです。あと、震災直後は交通インフラなども寸断されてしまいましたが、その点も大変だったのではないのでしょうか。

●村井 震災後しばらくは、情報や燃料などが入ってこない状況が続きました。そのことは、食料が入ってこないことも意味しました。宮城県は沿岸部に食品工場や商品卸倉庫が集中しておりますが、そこが被災してガレキで埋まってしまいましたので、倉庫に残っている食品を取りに行けなかったのです。ですから、すぐに県内にある食品が底をついてしまい、スーパーにもコンビニエンスストアにも何も食べるものがなくなってしまいました。そのとき、あらためて食べるものがないことの恐ろしさを感じました。

道州制で東北は日本の食糧基地に

●町田 東北地方は本来、全国比でも第一次産業従事者の比率が高く、カロリーベースでの食糧自給率も100%を超えていることから、日本の食糧基地といわれてきました。

●村井 それは、私が宮城県で政治を始めたこととも大きく関係します。宮城県へは、自衛官になってたまたま赴任したわけですが、ヘリコプターのパイロットとして空を飛びながら、将来は東北の時代になると感じておりました。

●町田 それは、食糧基地としての東北に魅力を感じられたということですか。

●村井 おっしゃるとおりです。今までは雪が発展を阻害していましたが、インフラが整備されて、それも克服されました。東北にはすばらしい田園地帯が広がっております。誤解を恐れずに言えば、日本の食糧基地という表現には、今まではどちらかというとマイナスのイメージがあった気がします。しかし、これからは世界規模で考えると、異常気象で間違いなく食料は不足しますし、中国やインドといった巨大人口を抱える新興国がこのまま経済成長を続けますと、ますます食料が不足することは明らかです。したがって、食糧基地であるということはすごい強みになるわけです。そういう意味で、この東北という土地が将来、必ず日本全体に影響力を持つエリアになるだろうという自信があります。

●町田 そこで、道州制というご発想が出てくるのですね。

●村井 そうです。道州制というのは、完全に国と道州とで役割を切り離しまして、インフラ整備や社会保

障などは道州が担い、国は外交、防衛、通貨、皇室といった国でしかできないことを担う非常に小さな政府になることだと思います。ちなみに、私は成功した道州制か、失敗した道州制かはすぐに分かるとよく言っています。それは、日本が道州制になったあとに、そのときの道州知事や、あるいは市町村長が東京にお上りさんで陳情に行く姿があれば、それは失敗した道州制ということになります。成功した道州制になれば、国に行く必要はほとんどないからです。

●町田 なるほど、それは大変核心を突いたご意見ですね。私もそのとおりでと思います。

●村井 道州制が成功すれば、仮に東北6県を東北州とでも言いましょうか、東北州は相当思い切った仕事ができるのではないかと思います。地政学的に見ても、中国やロシアに近いですし、アメリカにも日本列島の中では相対的に近い。そういった特徴を生かして大きく発展することができるのではないかと思います。

●町田 知事のご出身の大阪では、大阪都構想が持ち上がっていますが、都構想は、ある意味では大都市型の分権だと思います。東北としては東京や大阪とは違った広い地域として発展していく必要があるでしょうね。具体的には知事がおっしゃるとおり、農業に自信を持って国内外に飛び出していく地域戦略が重要だと思います。

●村井 東北では最近、自動車産業や観光、文化事業などで具体的に協力を始めています。農業はもちろんですが、ぜひその他の分野についてもできるだけ県境



村井 嘉浩 (むらい・よしひろ)

1960年、大阪府豊中市生まれ。防衛中学校(理工学専攻)を卒業後、84年に陸上自衛隊入隊。ヘリコプターパイロットとして東北方面航空隊(仙台市霞目駐屯地)に配属される。92年退官。松下政経塾を経て95年に宮城県議会議員当選。3期目途中で辞職し、2005年10月に宮城県知事当選。自衛官出身者では初の都道府県知事となった。2009年10月に再選、現在2期目を務める。趣味は茶道で「宗浩」の茶名を持つ。



町田 睿 (まちだ・さとる)

1938年、秋田県生まれ。東京大学法学部卒業後、株式会社富士銀行入行。取締役総合企画部長、常務取締役を経て、94年株式会社荘内銀行取締役副頭取、95年取締役頭取、2008年取締役会議長。09年10月より、フィデア・ホールディングス取締役会議長・北都銀行取締役会長。11年6月より荘内銀行取締役相談役(非常勤)を兼任。

などは取り払ってしまっ、力を合わせていくべきだと思っています。

●町田 今の日本は、東京一極集中のマイナス面が噴出している気がします。これからは、もっと地域の特性を生かしてそれぞれの地域が元気になれば、日本もまた勢いを盛り返すのではないかと思います。その意味で、話は震災に戻りますが、東北が一体となって復興に向かい、地域の主体的な再生の先駆けになることを期待したいですね。

再生可能エネルギー対策も東北一丸で

●町田 東日本大震災では、原発事故もあってエネルギー政策としての原子力発電にも大きな疑問が投げかけられました。地球環境の問題も考えますと、今後は風力など自然エネルギー（再生可能エネルギー）への転換が急がれると思います。実は、東北は再生可能エネルギーに向いている地域が多いのです。

●村井 私もそう思います。

●町田 秋田、山形、青森、それから岩手県北部の沿岸は風況が良いので、風力発電に向いています。そうした地域では、風力発電で自らエネルギーをつくり出す、つまりエネルギー源を地産地消できるのではないかと思います。現在、フィデアグループが中心となって、東北における再生可能エネルギーを活用した産業振興・雇用創出を図るべく、「TOHOKUスマートシティ構想」を推進しているところです。また、私が住む秋田では、「風の王国プロジェクト」という、沿岸部を中心に、県内に風車を1,000基立てる活動が行われています。いずれもまだ具体化はしていませんが、地

元からの発信として、行政のバックアップを得ながら少しずつ進んでいます。

●村井 非常にいいですね。私が自衛官のときですから、もう20年以上前になりますが、青森の竜飛岬からヘリコプターで北海道に行くときに、岬にとっても大きな風車が回っていたのを覚えています。風況が良いのでしょうね。風力発電に向いているところだということが分かりました。では宮城はどうかといいますと、冷涼でおかつ日照時間が長いので、太陽光発電に向いています。福島あたりもそうです。実は、太陽光パネルは日差しが強ければいいというのではなくて、暑いと熱効率が落ちますので、むしろ暑いところは向いていないのです。ですから、関東以西よりも東北の方が向いています。しかも、同じ地域でも夏と冬でしたら、冬の方が熱効率がいいのです。このように、お互いの良いところを生かし合えば、東北は再生可能エネルギーにも非常に強い地域になると思います。すなわち、東北は食糧基地だけでなく、エネルギーの供給基地になる可能性もあります。

●町田 本当におっしゃるとおりだと思います。

●村井 もっとも、需要があるところに供給が発生するわけですから、東北全体で力を合わせてエネルギー産業を興していくためには、同時にエネルギーを必要とする産業も興していく必要があります。その議論の中に電力会社も入っていただき、一緒になって考えていけば、電力会社にとってもプラスになるし、産業にとっても私たち住民にとってもプラスになるでしょう。そうしたWin-Win（相互利益）の関係が築ければ面白いですね。今回の震災をきっかけに取り組むべき重要な課題だと思います。

●町田 問題は資金面です。国も地方も非常に厳しい財政状況がありますが、実は日本全体では金余りで、世界的にも金余りです。したがって、このお金をどう生かすかが大事です。具体的にこういうプロジェクトなら十分採算が合うという確実性が明確に示されれば、お金はついていくと思います。

●村井 先日、東京にある在日米商工会議所で意見交換をする機会がありました。円高なので皆さんは日本で工場を建てるというリスクは負いたくないのですが、投資先についてはかなり関心を持って探していることが分かりました。ですから、税金に頼らなくても民間のお金を使えば、必ずいろいろな事業ができると思います。

●町田 国内だけでなく、海外の資金も活用できるということですね。これからの日本は研究開発型の技術

立国であるべきだと思いますので、産学連携で再生エネルギーや先進医療などに積極的に取り組んでいく必要があります。

政治に必要なリーダーシップ

●町田 これまでお話しさせていただいて、知事には大変なリーダーシップがおりであると感じました。

●村井 ありがとうございます。自慢話になってしまいますが、宮城県には過去20年間、30ヘクタールクラスの大型の企業立地はほとんどありませんでした。私が知事になって企業誘致もがんばろうと言いましたら、職員が過去20年間のデータを私に見せて、できない理由をたくさん出してきました。そこでずいぶん苦労しましたが、1つずつ解決していこうということでやりましたら、いくつか大きな企業を誘致することができました。そうすると職員が自信を持ち出しました。ですから、リーダーに大切なのは、部下に成功体験を与えて自信を持たせることだと思います。

●町田 われわれ民間でも、夢を掲げて、みんなをまとめて引っ張っていくというリーダーシップが必要です。今の日本は、特に政治の世界において、それが必要かもしれないですね。

●村井 おっしゃるとおりです。行政はどうだ、民間はどうだとよくいわれますが、みんな人間がやっている組織ですから同じなのです。民間でやっていることをわれわれ行政もどんどん取り入れていかなければいけないと心がけています。

●町田 知事が掲げる「富県宮城」というスローガンも大変印象的です。

●村井 私は主に、経済政策に軸足を置いています。宮城県を豊かにして、県民所得を上げて、税金に頼らない社会を作っていこうとずっと言っています。今回の震災では県民の0.4%に当たる1万人余りの方々がお亡くなりになったので非常に辛かったのですが、私は逆にこれをチャンスに変えて、あの震災があったから宮城県、ひいては東北は大きく発展したといわれることが、亡くなった御霊に報いることになると考えています。かわいそうだと言って喪に服しているよりも前に進もう、それが一番御霊に報いることだろうと思っています。これからはがんばります。



角田市の田園風景
東北地方は将来の食糧基地として期待される。写真提供：宮城県

●町田 大変心強いお話です。私も元気づけられました。

茶道で心に静寂を与える

●町田 最後に知事ご自身のお話をうかがいたいのですが、茶道がご趣味だそうですね。始められたきっかけは何でしょうか。

●村井 松下政経塾を創設された松下幸之助さんは茶道がお好きで、私も政経塾に入ると無理やりさせられました。私は正座が苦手でしたので、最初はなぜこんなことをしなければいけないのかと思っていました。しかし、和敬静寂という精神、一期一会という考え方が非常に日本的ですし、お茶というのは総合芸術で日本の素晴らしいものが込められていることに気づきました。それからお茶の雰囲気さがすごく好きになり、今は少しだけたしなんでいます。お点前は大したことありませんよ。

●町田 戦国時代に茶道がずいぶん栄えたというのは、殺伐とした世界に生きていたから逆に必要としたのかもしれないですね。

●村井 閉塞感のある今の世の中も、どこかあの時代に似ている気がします。もちろん現代の方が社会全体に余裕がありますし、楽しいこともたくさんありますが、こういう時代だからこそ、時には茶道の精神が必要なのかもしれません。

●町田 そうですね。本日は貴重なお話をありがとうございました。

震災復興の状況（石巻市西浜防潮堤）
震災後の状況（石巻市西浜防潮堤）
写真提供：宮城県

